

〈午前 11 時 14 分 休憩〉

〈午前 11 時 20 分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔6 番 伊藤 麗君登壇〕

○6 番（伊藤 麗君）

おはようございます。清新クラブに所属しております伊藤 麗です。議員生活で初めての一般質問をさせていただきます。

それでは、事前に提出いたしました通告書に基づき、1 回目の質問をさせていただきます。

1、子育て支援について。

医療的ケア児を子に持つ親御さん方から様々なご要望をいただきました。糸魚川の明るい未来のためにいかなる状況、立場であっても「子育てしたいまちづくり」という観点から、以下を質問いたします。

(1) 重症心身障害児や障害児を子に持つ世帯の経済的、心身的負担の軽減にまちとして取り組む必要があると考えますが、市としてのお考えはいかがでしょうか。

(2) 重症心身障害児や障害児を出産されたご家族は、本来であれば利用できる助成やサービスについての情報がなかなか得られず、お困りになるそうです。市からは、現状どのように該当の世帯に情報共有を行っているのでしょうか。

2、自立したまちづくりについて。

多様化するライフスタイルとニーズに対して、行政に全てを求めるのは率直に難しく、ボランティア団体やNPO法人など社会問題に対して向き合い、活動する団体や法人が行政と協働し、細分化したニーズに応えることができる仕組み、きっかけをつくり、「お互いを支え合うまちづくり」が必要だと考えます。

(1) 市内では起業支援を行っていますが、ボランティア団体、NPO法人などを育てる取組はされていますか。

(2) 行政が抱える事業の中で、外部団体に委託した方が効率がよいと考えられるものを、既に活動している団体や法人、個人向けに平等に共有し、「行政の下請け」ではなく、「行政との協働」と対等な立場で話し合いの場の機会を作ってはいかがでしょうか。

(3) 市内で既に活動する、様々な団体同士の交流・情報交換の機会を作ってはいかがでしょうか。

以上、1 回目の質問です。ご答弁よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1 番目につきましては、これまでも障害児を持つ保護者に対して負担軽減や情報提供に取り組んできたところであり、引き続き、保護者一人一人の声を聴き、利用できるサービスの提供など、寄り添った支援を行ってまいります。

2 番目の1 点目につきましては、ホームページで設立・運営支援等の情報提供を行っており、今後も啓発に努めてまいります。

2 点目につきましては、初日の所信の中で申し上げましたが、官民対等の立場で公民連携プラットフォームを設立して、行政と民間との協働を進めてまいります。

3 点目につきましては、地域づくり活動やまちづくり運動を実践している団体の事例発表を通じた交流会などに取り組んでおり、引き続き、団体相互の連携・交流による活発な活動展開となるよう努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6 番（伊藤 麗君）

それでは、1、子育て支援についての（1）について、再質問いたします。

障害者福祉のしおりにある有料道路通行料金の割引についてです。市外の送迎付きデイサービスを利用した場合、運転しているのが、事業者の方で、本人でも介護者でもないため、有料道路通行料金の割引が受けられず、現状は、事業者と利用者で折半するかどうかの話し合いが行われているようです。

市外の民間の事業者を利用しているということもあるんですけども、この話し合いの中に、市として関わっているのでしょうか。それが心配なので、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

おはようございます。

今ほど市外の事業者と利用者の中に、市が話し合いに入っているのかというご質問ですが、そちらについて、現在のところ、そちらのほうの話し合いの中には、市は入っていない状況であります。また、機会を捉えまして、そういったお話の場に市が参加したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6 番（伊藤 麗君）

利用者の方の状況だったり、新しくサービスが生まれたりしている中で、必要なことだったり見

直しが求められることが、随時出てくると思います。そんな中で、やっぱり事業者と利用者様だけのやり取りになってしまうと、どうしても行き詰まってきてしまう場面が、恐らくたくさん出てくると思いますので、できれば市と交えて、一緒に話し合いを持つような機会を定期的に設けていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

まず、サービスを開始する前に当たりましては、障害児の状況が、それぞれ異なりますので、保護者、また事業者、また相談の支援専門員等を交える中で、サービスのほうを開始しております。

しかしながらサービスを利用する中で、それぞれまたいい面、またちょっと不都合な部分も出てこようかと思っております。そういった点につきましては、適時、関係者によりまして、その障害児に適したサービスが提供できるように努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今回の場合なんですけれども、市内にデイサービスがないので、市外の施設を利用している状況です。それに対して、今回、有料道路通行料金の割引についての制度に関しては、柔軟な対応をしていただくことはできないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

市外の施設を利用することによりまして、障害児、また保護者にとりましては、心身の負担、また経済的な負担があり、大変なことだと感じております。

お話のありました市外の事業所の車を使用した際、有料料金の負担の軽減につきましては、また、保護者、関係者のご意見をお聞きし、検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ぜひ前向きに、検討をよろしく願いいたします。

次の質問です。

自動車改造費の助成についてです。福祉車両に改造するときの助成についてなんですけれども、現状、対象者が車椅子利用者があるご家庭になっていることで、低年齢の、例えばベビーカーやバギーを利用している障害児には利用できない内容になっております。こちらも柔軟な対応をしていただくことはできませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

市が定めております自動車の改造費の助成事業では、車椅子利用者という言葉となっております。しかしながら、成長の段階によりましては、車椅子を使用できず、議員おっしゃったベビーカーであるとか、バギーを利用せざるを得ない場合もありますので、今回お話にありましたベビーカー、また、バギーにつきましても対象としていきたいというふうに考えております。

ただし、安全上、車の改造には、陸運局の許可等も必要になる場合があります。ベビーカー、バギーを使用した改造が、認められるというふうなことが条件になろうかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今回の自動車改造費の助成については、保護者の方が福祉事務所に恐らく足を運んで、要望なのか、ご相談なのかはあったことかと思えます。

ただ、保護者の立場からすると、これができるか、できないかが分かった上で自動車を購入するのか、改造していくのかという検討が、その後でさらに、また時間を要して必要になっていくことかと思えます。ですので、その前段階でのベビーカーを利用可にするのかどうかということの、判断するまでのスピード感というか、そういうものも必要かと今回お話をお伺いしている中で感じました。その部分は、何か担当している係の方がお話を聞いてから、できる、できないというふうに、判断されるのは、もしかすると所長さんなのかなと思うんですけども、所長にすぐに話をして、すぐに把握していただいているものなんでしょうか。そのスピード感というか、担当の係からの報・連・相というか、そういうものが、どの程度の頻度で課内で行われているのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

通常、そういった助成の要綱に定めるものに合致するようであれば、担当のほうの判断で、そういったお話を決裁という事務はございますが、お答えできる部分があるかと思えますが、今回のケースのように、要綱上に合致するような言葉がないような場合には、適宜、私のほうに報告いただいて、対象になるかどうかというふうな相談を受けてるところであります。今回、少し時間がかかったようなケースかと思えますので、そういったところは、利用される方が不都合・不便のないような形でスピード感を持って対応してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

よろしく願いいたします。

次に、障害者手帳の交付についてです。レスパイト入院や様々なサービスを受けるために必要な障害者手帳は、現状の制度では、1歳を超えなければ交付されないというふうに聞いております。重症心身障害児など明らかな場合は、これも柔軟な対応が求められると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

国の通知では、身体障害者の交付につきましては、障害程度が判定することが可能となる年齢といたしまして、おおむね満3歳以降をその通知としております。

しかしながら、交付に当たりましては、都道府県が定める指定の医師というのがいらっしゃいます。その医師の方が、対象となる児童が、満3歳に満たない場合であっても障害の程度に合致するといった場合には、そういった意見書を書いていただきまして、手帳が交付することができますので、そういった場合には医師、また障害児の方々と障害に該当されるかどうか、適宜その時点で判断してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ということは、お医者さんの判断によるものが大きいということによろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

議員おっしゃいますように、医師のほうの判断によるものになりますので、その時点で、またご相談等いただければと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

では、次、質問させていただきます。

リハビリレスパイト施設の不足についてです。糸魚川市ささえあいプランの中の項目に糸魚川総合病院でレスパイト入院の取組が始まりましたと書かれていますが、現状の利用状況は、どのよう

になっていますか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院におけます障害児のレスパイト入院の現状ということでございますが、糸魚川総合病院に確認いたしましたところ、これまで使われてきた方がいらっしゃるということですが、現在のところ定期的に利用されてる方は、いらっしゃらないということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、糸魚川総合病院では、今、レスパイト入院の取組は継続されてるということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

レスパイト入院の取組につきましては、糸魚川総合病院のほうで現在も行っております。随時、相談・要望等を受け付けるというお話でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

以前、レスパイト入院を利用したという保護者の方からもお話お伺いしているんですけども、実際、利用するに当たって、いろいろ保護者の方に、結局負担がかかるという部分で、例えば必要な、その方は冷凍庫が必要だというふうにおっしゃってたんですけど、必要なものがそろってるお部屋をちょっと用意してもらうのが難しく、ご自身で冷凍庫を準備して、持っていったりだとか、保護者の負担がなかなか軽減されない現状があるというふうに聞いておりますが、その辺りは、糸魚川総合病院と相談しながら市としても取り組んでいくことというのは可能なのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

レスパイト入院といいますのは、いわゆる家族の方々が休憩・休息するための入院ということで

ございます。やはり入院される障害の方によりましては、それぞれケースが異なってくることはあろうかと思えます。例えば初めての入院であれば、なかなか病院に慣れず、保護者が必要になるといった場合で、多少付添い等もお願いすることもあるでしょうし、今ほどおっしゃった機材等の持込み等も病院でできる範囲についてはしていただけるかと思うんですが、保護者のほうにご協力を求める場合もあろうかと思えます。いずれにしましても、本来の目的でありますレスパイト入院、こちらのほうが家族にとりまして、スムーズに進められますよう市としましても病院側、また家族側、関係者とお話ししていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

リハビリにおいても、医療的ケア児、障害児の保護者の多くは、市外の施設を現状利用しているというふうに聞いております。医療的ケア児にとって、その移動自体が体に大きく負担となる場合がありますが、市内にこのような施設を設置していくお考えはありますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

市内にリハビリ等の施設がないことによりまして、市外である長岡市であるとか、県外の富山市といったところに通われてる方がいらっしゃるのが実態でございます。

このような施設には、リハビリ等の専門職の配置、また、継続した運営といったものが必要となりまして、様々な課題もあろうかと思っております。引き続き、利用者の状況等を見ながら、設置につきましては、随時検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

利用者の人数とかも、設置していくに当たっては、利用者の人数なども重要になってくるんじゃないか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

利用者の人数というのも設置の一つの指標にはなろうかと思えますが、また、運営してくださる事業者、法人等がいらっしゃるのかどうかといった部分についても、重要な部分になってこようかと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

運営する事業者の有無ということなんですけれども、上越で実際に運営が始まっている取組もありますので、他市に倣いながら、どのように運営してるのかなどを、市と何かこうもし手の挙がるような事業者さんがいらっしゃれば、一緒に取り組んで、ぜひいつていただきたいなと思っております。よろしく願いいたします。

次なんですけれども、親側のメンタルケアについて、お伺いいたします。

産前検査や定期健診で、障害が分かることがあると思いますけれども、その時点で市としては、把握しているのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

市として障害が、お生まれになる前に把握してるのかどうかというご質問なんですけれども、市に提出されます妊婦健診の受診票で把握しているのは、貧血であったり血圧などの妊婦さん側の健康に関わる項目のみでありまして、市として、障害の有無の把握というのは、妊婦健康診査の結果からは非常に難しい状況です。

また、産前検査、ご希望によって産前検査をされる方もいらっしゃいますけれども、それについても今まで市への相談もなかったということ、また、ご本人の、妊婦さんのお気持ちもありますので、把握は非常に難しいなど、今現段階では、そう捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。磯野課長おっしゃいますように、非常に難しい部分だというふうに、私も思っております。

ただ、例えば妊娠期間中に胎児に障害があることが分かった上で、産むことを決めたご家族・ご家庭の方にとっては、不安だったりだとか、いろいろと悩みが出てくるかと思えます。そのときに相談するような窓口というのは、設けられているのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

例えば妊婦健診であったり、産前検査であったり、その結果で、妊婦さんが心配なこと、また、不安なことがあれば、一義的には医療機関に相談していることだというふうに思っておりますが、妊娠届から、市の保健師が関わっておりますので、そういったところを相談しやすい関係性の構築、



今も努めておりますけれども、これからも引き続き、そういったことに努めて、気軽に、障害があるので気軽にという言葉はちょっと不適切かもしれませんが、私、こんなこと言われたんだよというような、そういったご相談に来やすいような関係性の構築に今後も努めていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

妊婦さんのことに関しては、把握していくのが難しいということだったんですけれども、市のほうで積極的に相談窓口などを設けることで、逆に把握していくことができるようになるのではないかなというふうに思うんですけれども、そのアイデアについては、いかがお思いですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

繰り返しになりますけれども、妊娠届にいらっしゃったときに、保健師が事細かにお体の状況ですとか、そういったところを妊娠された方と面談をさせていただきます。そういったところで、いつでも気軽に相談してくださいというようなところをアナウンスを、今もしておりますし、また、今後ホームページ、あるいはあらゆる媒体を通じまして、そういったところを情報発信していきたいなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、糸魚川市においては、カウンセリングケアの部分については、保健師さんが請け負っているということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

カウンセリングやケアというのは、病院などで心理職を置いている医療機関では、異常が見つかった場合、カウンセリングやケアを行い、ケアしてくれる場合もあります。

糸魚川市は、やはり本当に繰り返しになりますけれども、保健師がついておりますので、しっかりそこは妊婦さんに寄り添って、支援をしていくということだというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ほかの市、他市では、専門のワーカーなどを置いて、ご家族のケアを行っているところもあります。ささえあいプランに記載のある設置を検討しているという医療的ケア児コーディネーターの設置について、取組の状況はいかがですか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

医療的ケア児に対しますコーディネーターの設置であります。こちらにつきましては、現在、自立支援協議会という組織がありまして、そちらの子ども部会という、子供の専門の部会がございます。そちらのほうで検討しておりまして、こちらのささえあいプランにありますとおり、令和4年度に1名の設置を目指して、現在進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

いつぐらいに設置されそうとあって、めどとあってついているのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

コーディネーターの設置につきましては、現在のところ令和4年度中に1名の設置を目指して、進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市内には、産前産後ヘルパー事業がありますが、医療的ケア児や障害児を子に持つご家庭向けに産前産後、お子さんの月齢にかかわらず、このようなご家庭の補助をするような事業というのは、ありますでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

障害の有無にかかわらず、出産後1年以内の方であれば、あくまでも家事支援などに限られますけれども、今おっしゃった産前産後ヘルパー事業も利用いただけます。

ただ、医療的ケア児ということで、吸痰など、そういったところは、保護者の補助的なことがあれば可能となっておりますので、細かいところはお利用前に相談をさせていただくことになってお

ります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、お子さんの月齢にかかわらずというふうに申し上げたんですけれども、障害の程度だったりにもよるんですけれども、お子さんの体の発達のスピードが遅くて、3歳に満たないぐらいの年齢になったとしても、まだミルクが必要だったりだとか、育児での負担が、そのまま引き続き大きい場合があります。その場合にも利用できるような、柔軟な対応ができるようなそういう制度は、現状あるんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今、私、出産後1年以内ということで、原則は出産後1年以内の方ということです。ご利用になれる方のお子さんの状況にもよると思うんですけれども、またそれをちょっと今後の検討課題だというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

では、次です。

糸魚川総合病院の体制についてです。糸魚川総合病院の小児科医が、近年では、毎年代わってしまうことに不安を感じているご家庭が多いようです。それに対して、市として何か対応はお考えですか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

小児科医が、短期間で代わるというお話だと思います。それについては、初めて今聞かせていただいたような状況でありますので、まず、病院のほうにどういう状況なのか確認させていただきたいと思います。恐らく派遣元の大学の事情であったり、ご自身の事情等々あるかと思えます。その上で、対応させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

お子さんが重症児であってもなくても、保護者は、できればいつも同じ先生にずっと自分の子供

の健康状態を見てほしいという気持ちがおありだと思います。今現状だと、どうやら2人のお医者さんがいらっしゃるんですが、同時に毎年代わって行ってしまっているような状態だというふうに聞いております。ずっといていただくのが難しいのであれば、例えば交互にでも代わっていただけるような体制づくりだったりだとか、そういうものが必要かなというふうに思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、議員お話しのように親御さんにとっては、先生が代わられるというのは、大変不安なことだと思います。その引継ぎというのは、恐らく病院ではしっかりしておるんだとは思いますが、今ほどありましたように2名のうち1名ずつの交代だとか、そういうことで親御さんの不安を少しでも和らげることができるようであれば、病院のほうにその旨、お伝えさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市内には、ほかにも小児科医がありますが、ほかの小児科医で、個人の病院で入院を受け入れるような体制づくりというのは、難しいのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

単純に考えれば、ちょっと開業医での入院というのは、設備だとかスタッフの面で厳しいのかなというのは容易に想像がつくんですが、想像だけでなく、今のお話を医師会を通じて小児科医のほうにお伝えさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

そうですね、単純に難しいということであれば、やっぱり糸魚川総合病院の体制を整えるということが、とても大事になってくると思いますので、どうぞよろしくお伺いいたします。

では、次、1の（2）について、再質問いたします。

重症心身障害児を含む医療的ケア児が、低出生体重児を出産した場合、すぐに医療ケアが必要であり、それに伴い受けられる助成の情報の取得が、早期に求められることと思っておりますが、市とご家族、医療機関との連携体制は、スムーズに取れるようになっているのか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

そういったご心配なお子さんが出産されたときは、保護者の同意を得まして、連絡票が、医療機関から市に送付されるようになっていきます。その連絡票に基づきまして、退院後、早期に保健師が保護者への連絡や訪問を行っております。何らかの支援が必要な場合は、必要に応じて医療機関であったり、あるいは保健所、市といった関係機関で情報共有と支援を検討するケース会議を開催しております。状況によっては保護者も同席いただいているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。ケース会議、場合によっては保護者もというふうにおっしゃっていただいたんですけれども、ケース会議が開かれたこと自体を保護者に伝えていたりとかは、するんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

保護者が欠席された場合は、当然、関係機関の結果をもって保護者の方にこういった支援はどうですかというようなアプローチは、当然行っているというところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今回、ご相談いただいたご家族のお話をお伺いしている中で、障害者福祉のしおりというものがあるということ、私初めて知りました。このしおりは、産後、障害児を出産された際に、すぐに配付されるものではなく、しばらくしてから、この保護者の方も市からもらったというふうにおっしゃっていただいたんですけれども、これは産前、障害がある子が生まれるということが分かった時点、もしくは産後すぐに保護者へ配付してはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

お子さんの障害の状況であったり、保護者のお気持ちなど、個々の状況がそれぞれですので、一律に同じ内容の情報提供というところは、非常に難しい面があると思います。慎重にやらないといけないなというふうに思っておりますが、そういったところは保護者のお気持ちを酌み取る中で、徐々にといいですか、適時適切に紹介していきたいというふうに思っております。

○議長（松尾徹郎君）

質問の途中ですが、昼食時限のため、暫時休憩いたします。再開を1時といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

障害児を子に持つ親同士の交流の場を設けるだけでも、情報共有の機会になるとと思いますが、そういう場はあるのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ふだんの悩みや不安なことを、仲間と共有し合う機会というのは、非常に大切なことだと思っております。発達支援センターめだか園で、おしゃべり会と称した交流会を実施しております。本年度も利用者の保護者に限らず、広い形で募集して、交流会を計画を今しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

めだか園での交流会は、どのくらいの頻度で行われているのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今のところ年1回ということなのですが、年齢といえますか、子供さんの状況も違いますので、そういったところの対応というのは、今後の課題だというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

年1回だと、やっぱりその機会を逃したら、また、次の年までないというふうに、ちょっと頻度が少な過ぎるかなというふうに感じました。

もう少し増やすことは、可能なんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

保護者のお気持ちも含めて、年1回やっているということで、保護者からの、またご要望があれば、それに沿ってということは、考えていかなければいけないというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

保護者へは、どのように希望というかを取っている状況なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

めだか園に通っていらっしゃる方が主なんですけれども、通っているときに、通ってこられた際にめだか園の職員が保護者とお話ししまして、じゃあ交流会を今度いついつかにしましょうというように形で、お話を決めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

めだか園に通うことができないお子さんもいらっしゃると思います。そういったご家庭の方の意見は、どのように聞いていらっしゃるんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほど私申しました今年度の交流会も、めだか園に通っていらっしゃる方以外の保護者についてもお声がけをするということで、そういった場合は、担当の保健師が個々にご案内するというようになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市外であっても、新しく誕生した施設やサービスについては、該当するご家庭にお知らせすることが必要だと思いますが、こちらはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

市内に定めたサービスではなく、市外で新たに施設サービスができた場合ということでございます。そういった対象となる方への情報提供につきましては、現在でも相談支援専門員等を通じまして、こういったサービスが適切ではないかといった、その状況を見ながら情報の提供に努めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

また別の相談員の方がいらっしゃるということですかね。保健師さんとは、また違う相談員の人と相談しながら情報共有していくということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

説明が不足しておりまして、大変申し訳ございませんでした。

相談支援専門員につきましては、その障害児が、このようなサービスを、例えば月に何回するかといったサービスを組み合わせるといいますか調整する役割でもございます。そういった相談員を通じてサービスの情報を伝えるとともに、それ以外の、先ほどお話しありました保健師等も通じまして、そういった市外のサービス等につきましても情報提供を行っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、該当するご家庭にというふうに申し上げたんですけれども、もしかしたら該当するご家庭に限らず、全ての子育て世代に配信しているメールだったり、そこに記載があってもいいのかなというふうに思いましたが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

全てのご家庭にというふうなご意見かと思っております。その情報全てが、そういった方々に有益といたしますか、合う場合と合わない場合等もございます。適切な方に適切な情報をとということ



主としておりますが、今ほどありました全ての方という部分につきましても、改めて検討させていただきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

対象になる家庭だけが、その情報を知ってればいいだけじゃ、もしかしたらないのかなというふうに個人的には、ちょっとそういう考えもあって、そのように提言させていただきました。

以上で、私からの1の子育て支援については、以上になります。

子育て支援の中でも重症心身障害児含む医療的ケア児への支援について、質問させていただきました。

ご家族の方から、このように今回ご相談いただいた中で感じたことは、本当に皆さん、毎日きめ細かくアップダウンの激しいお子さんの体調の変化に向き合い、一生懸命ケアに当たっておられるということです。その生活の中で、福祉事務所やこども課、関係各所へ制度の申請や要望にいらっしゃるということを、どうか市の職員の皆様には心に置いて、寄り添ったご対応をお願いしたいと思います。その積み重ねが、きっとまだ見ぬ糸魚川の未来の子供たちと、そのご家族のためになることと思いますので、引き続き、私もご家族と行政の皆さんと一緒に働かせていただきたいと思います。

それでは、2、自立したまちづくり（1）について、この質問の背景には、先ほどの医療的ケア児に対する支援のご相談をいただいた際に、私なりに行動した中でNPO法人やクリニックなど、専門性の高い民間と連携して問題に当たったほうが、迅速に、かつ即効性を持って対応できる場合が往々にしてあると感じた経緯があります。

そこで、再質問いたします。

市内で起きている社会問題に対して、何かしたいと考えている人が市内にたくさんおります。こういう人たちの後押しになるような、積極的なサポートを行政には求めたいなというふうに考えておりますが、市のお考えをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

議員の質問は、1番目の質問からのつながりだというふうに捉えております。確かに、民間の皆さん、市民の皆さんにも、今こういった状況で、何とか役に立ちたい。自分の持つスキルを生かしたい。そういった方がおられると思います。

今、行政としましても、地域づくりですとか、いろんなまちづくり団体の育成というところで、いろんな人たちとの関わりを持っております。その中から、地域の熱意のある方が中心となって、行政も一緒になって、何とかそういった思いのある方を見つけ出して、できれば一緒にまちづくりは協働で進めていくという考えで進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

何かしたいというふうに思い立った人が、どこに相談に行ったらいいのかなというふうに、皆さん恐らく迷われると思うんですけども、そんなときにここにまずはという、何か担当の課とかはありますでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

まずは、行政も待ちの姿勢じゃあいけないですね。やはり今、企画定住課の例を取りますと、地域振興係という係がございます。やっぱり地域で地域づくりという形で、いろんな自治会も含めた振興会という形で出向いております。そういった中での何気ない会話の中で、こういった人がいるんだ。それから、会合の中にもちょっとした面白い意見というのは出てくるんですね。そういうところでしっかり話を聞いて、いや、もうそれだったら、ここにいる部・課長も大勢いますけども、ほかのところでのこういった人材は生かせないかという取組は進めておりますし、また、今ちょっと事業で、過去に復興まちづくりの部分のところで、やっぱり相談に乗ってくれる人材というのは育ててきました。

逆に、行政の人間だとなかなか話づらいという面もあると思うんです。それとは逆に、ちょっと中間支援組織的な位置づけの方がおって、そこへまず相談に行って、いろんなノウハウを聞いたりとか、実際、自分がやりたいことを実践に、どう力になってくるか、そんな取組を進めてきておるところです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市民の方からすると、恐らく中間支援組織に当たる場所にお話しにいかれるのが、何か気軽にいいのかなというふうに思うんですが、今の糸魚川市のそれに当たる団体だったり、法人というのは、何になるんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

数で何人かと言われると、ちょっともう何人と明言したいところなんですけど、申し訳ありません、そこまではちょっと申し上げられませんが。1つは、いろいろ復興の関係で出てきたまちづくりラボという団体ですとか、EKIKITA WORKS（エキキタワークス）という形とか、あと能生のほう、ゆとり館の、今、運営のほうで関係していただいている「波と母船」さんと、そうい

った方たち等が代表的なところで、いろいろ地域活動のほうを引っ張っていただいているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。NPO法人やクリニックというふうには、あえて申し上げたんですけれども、専門性の持った団体というか、そういうものを育てていく必要があるかなというふうに思っているんですけれども、NPO法人に限らず、いろんな法人格があります。株式会社も、その一つではあるんですけれども、何か始めたいと思ったときに、自分がやりたいことは、何に向いてるのかとかについても、分からなかったりする方が多いと思うんですけれども、そういう何か、どういう形を取っていったらいいんだよというアドバイスしたり、教えてくれるような体制だったり、教えてくれるような担当の課というのは、あるんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

行政の窓口でも、なかなか今そこまで専門的なNPO法人がいいのか、もしくは株式会社がいいのか、場合によっては一般社団法人がいいのか、いろいろやっぱり皆さんの目的に沿った法人の格付というのがあると思います。そこら辺を全て網羅して、窓口というのは、もし今、端的に申し上げますと複数の課にまたがっていくというのが、今のところなんです。そこら辺の皆さんのやりたいところ、何が目指すのかというところは、やっぱり職員の中でもしっかり把握しながら担当課へつなげていくと。まずはそういった取組で進めていきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市として、NPO法人や、そのほか法人格を持つ特徴についてなどの勉強会だったり、それぞれで活躍されているような代表の方に講師を務めていただいた講演会など、講座だったり、行うといんではないかなというふうに思うんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

かつて、いろいろ話合いの促進をしたりとか、話合いをどう進めたいというので、新潟市にあるNPO法人にちょっと委託をかけるような形で、地方創生がちょうど始まった頃だと思います。やはり話合いをどう進めていけばいいのか、なかなか行政でもノウハウがなかったというところで、まずは座学で勉強するのも当然いいんですが、こういった話合いというのは、もう実践が大事だと

思うんです。やっぱりいかに場を踏んで、いろんな市民の方がいらっしやいます。いろんな意見あります。そういうのをうまくコーディネートするにはどうすればいいのかというところで、チャレンジしてきたのがあります。そういった取組の中で、また今はコロナ禍でも、状況も変わってきてます。そういったこの分野に特化したというところも出てくると思いますので、そういった講師を呼びながら、方向性を定めていくということで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、（2）の質問に参ります。

行政が抱える事業の中で、外部団体に委託したほうが効率がよいと考えられるものを、既に活動している団体や法人・個人に向けて、平等に共有したほうがいいという考えに基づいてなんですけれども、ほかの市町村では、NPO法人などが受託して、すごく魅力的に運営されている事業が、糸魚川市にも実は、行政が抱えたままある、存在していたということ、私、前回、女性の意見を聴く会に参加したのをきっかけとして知ることができました。ほかにもきつと行政が、どこにも委託することができずに抱えたままになっている事業があるのではないかなというふうに考えました。それをもっと市民に開示して、協働を求めるような積極的な働きがあるといいのかなというふうに考えますが、それについては、いかが思われますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員の今のご質問のところで、なかなか市が抱える問題というところになります、いろんな分野、特に今、議員は社会問題というふうに絞っていらっしやいますね。行政もいろんな部署がありますけども、それぞれやっぱり課題があつて、解決したいという気持ちは一緒なんです。その部分を市民に開示してというところになります、実際どっかでこういう事業をやりたいという、公表はちょっとしてはいないんですが、市長答弁にもございますように、まず一つは、行政改革というところで、実施計画というのをつくってるんですね。その中でやっぱり民間への委託ですとか、そういった今課題があります。1つはそのところの方向性として、今出してるというところが1点目になります。

そのほか、いろんな協働でやっていかなきゃいけない。要は、上下関係ではなくて、対等な立場で進めていかなければならない。やっぱり社会問題を解決しなきゃいけない。そういった課題は、進めていかなきゃいけないというところで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、お話をお伺いして、もう一度お伺いしたいんですけれども、市が委託することができる

事業を市民に広く開示すること自体は、その考えとしては、ありなんではないでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

開示といいますか、実はもう困ってて、既にやりたいというところが、やっぱり詰めなきゃいけないんですね。そうしますと、1つは公募という形で、よくおしらせばんとかでこういう方たちを募集しますとかって案内が出ると思うんですが、開示というのは、ひとつ市の中でしっかりもんで、じゃあこれは民間のほうで誰かやっていただけないでしょうかという形で、公募というような形で取らせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。それでは、（3）についてお伺いいたします。

以前、私は糸ジャムに参加させていただいたことがあるんですけども、これは恐らく団体の交流と個人同士の交流、情報交換を狙ったものだったと思うんですけども、こういう糸ジャム、まちづくり的なものと、また違う、本当に社会問題に向けて、こういうことがしたいんだという人たちの会議でもいいと思うんですけども、そういう機会というのは、今あるんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

私のこの範囲でいきますと、どうしてもまちづくり、コミュニティ系というお話しかできません。今、担当部署のほう、社会問題に特化した話合いというところは、今ちょっと把握はしておりませんが、これから非常に議員の1番目の質問からも関わってくる部分で、本当にやっぱり行政と、本当に困ってる方のつなぎ役というのは承知しておりますので、今後はやっぱり機会を捉えながら、ジャンルも含めて進めていって、よりいい行政と市民の皆さんと協働でまちづくりができるというふうを考えておりますので、ジャンルについては、またちょっと研究をさせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。それで、ちょっとまちづくり系の何かそういう交流会の場合のお話、ちょっとだけさせていただきたいと思うんですけども、糸ジャムに、先ほども申し上げましたが、

参加いたしました。現状、そういう交流会の機会が、なぜか土曜とか日曜の場合が多いなというふうに感じております。

私が参加した会には、上の子供を一緒に連れていったんですけれども、ちょっと子供のことに、目が離せなくて、話をゆっくり聞いたりとか、結局何かできなかつたなという感想があります。ですので、子育て世代の参加がちょっと難しいかなというふうに感じました。託児スペースなどがあれば、子育て世代でまちづくり、後は何かやりたいことがあるんだけど、何からしたらいいかわからないという人が参加する場合に、託児スペースがあると、もっと参加、気軽にできるようになるかなというふうに思いました。それについて、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

当課が、開催しました糸ジャムに議員もご参加されていたということで、ありがとうございます。

今の子育て世帯も含めた、やっぱり参加しやすい取組、そういったところは、今ご提言として受け止めさせていただきますので、いろんな事業を糸魚川市でもやってまいります。そういった意見も含めて、工夫はさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

子育て世代であっても参画したいという気持ち強い人もたくさんいらっしゃいますので、どうかそういった機会が失われないように工夫をしていただければなというふうに思いました。

今回、質問を考える中で、私が活動してきた経過だったり経緯を思い返してみたんですけれども、やっぱり仲間と会話を重ねて、新しい仲間に出会って、そんな中でこういうことにチャレンジしてみようかなとか、あと私の場合はNPO法人設立に至ったんですけれども、ただ、NPO法人で何なんだろうとかというふうに考えたときに、残念ながら市内でそれを学ぶ機会があまりなく、お隣の上越市から学ぶことが非常に多かったなというふうに感じております。それだけに市内・外関わらず、いろんな人、団体と出会って、話して、考える機会の創出が、非常に大切だと思っております。そのきっかけをどうつくるか、仕掛けるか、私も引き続き、行政と一緒に考えてまいりますので、よろしく願いいたします。

以上で、私からの質問を終わりにいたします。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。